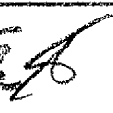

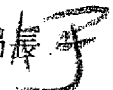




極秘
~~秘~~


1 次官 

2 島外務省議友 
APR. 18. 1962

アジア局長 

宇山審議官 

ト部参事官 

北東アジア課 

10 韓問題に関する小坂大臣
ライシャワー大使会談記録

37. 4. 17
北東アジア課

17日午後、ライシャワー大使は小坂大臣を来訪
し会談したが、その間、10 韓問題に関する
部分は次のとおり。

まず、小坂大臣より、先般の第1回10 韓
政治折衝の要旨を説明し、話合いは請求権

漁業, 韓国人の法的地位, 文化財, 船舶等

諸懸案にわたり, また, 両国間の空気を改善

するといふ趣旨から 竹島問題 も取り上げられたが,

会談の中心は何といても請求権問題で

あり, その基本的な考え方として, 賠償では

ないこと, 南北解, アメリカ解釈, 証状書類

の問題があること等を指摘した。これに

対し 韓国側は 竹島問題, 南北解の問題

について強く反論してきた。結局会談を通

いて判明したことは, 双方の考え方が大きく

違い違っていることと, 崔長官の態度があまりに

もかたいたいといふことであつた。従来の朴正熙

議長や金鐘淑中央情報部長の態度とは

非常に違つていた。日本側としては鋭意を以

て政治会談に臨んだのであるが、崔外務

部長官は、日本側のいふこととさうしても理解

しようとしなかつた。結論として、自分は今回

の政治会談の結果につき落胆している旨述

へた。

これに対し、ラ大使より、米國としては、

本國政府はもちろん在京大使館もソウル

大使館で、今次外相会談の結果、兩國

関係が、一歩前進するものと大いに期待して

いたが、逆にむしろ後退したようなことば

なり、非常に失望している次第である、日本側

においては今後どうするのかが、参議院選挙の

後には再開する考えがあるのか、その辺の

ところを承わりたい旨質問した。

小坂大臣より、これに対し、先方の考えが

が変らぬ限り、現在のところ会談を行なう

気持はない、今のようは韓国側の考えが

では、いくら話合っても何ら成果は生まれて

こないように思われる、わが方が韓国側の

言いかえそのまま呑むようなことがあれば、日

本の国民がおさまらないものと考え、池田

総理においても当分は黙固だという感じ

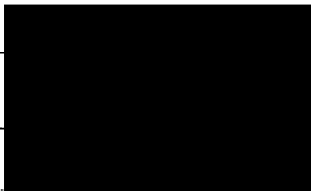
を持つておられるように承知している旨

述べた。

ラ大使は、これに対し、貴大臣が日韓

の考え方が違ふと申されたのは数字の問題

なのであろうが、もしそうであれば、少億ドル

と  では自分としてもあまりに

大きな差心であると考え、自分としては

日本側の  というのはあまりにも

unrealistic な数字であるといわれるとえない。

韓国人は非常に sensitive な国民である。

問題の根本は、請求権という法律問題で

もなく、また、経済協力という経済問題でも

なく、結局、36年の朝鮮統治に由来する

韓国国民の psychology の問題なのである。

日本の考えている親が

が、

程度というのでは、到底韓国側はおさまらない

であろうと考える、自分としては、日本側が

もう少し出さべきだと思う、呼称は請求権で

の無償援助でもかまわないが、何れにしても

数億ドルはあきねは解決しないと考える、

10年位に分割して去せば、日本は売却し得

る実力があると考えると述べた。

これに対し、小坂大臣より、日本としては

朝鮮に莫大な財産を置いてきた事実を指

摘せざるをえず、また、米団が在韓私有財産

を没収したのは、戦時国際法違反であると

いう問題も起り得るし、そうすれば日米関係

にも影響しよう。従って、日本としては請求権

であれ、無償援助であれ、韓国側に支払

う結果となる金額は小さくせざるを得ない、

そこで長期低利という考え方になるわけだが、

韓国側はこれには全然興味も示さない、

また、貴大使は、韓国人の psychology の問

題であるといわれるが、日本側にも psychology

の問題がある、李承晩は、永きにわたり

反日、抗日政策をことし、日本人は未だに

韓国人に対し好感を持っていないことを

考えに入れなければならぬまいと忖測した。

ラ大使は、米國側でもさらに検討した上、

改めてゆくり話し合う機会を持ちたいと

述べて合談を終った。

武内外務次官・シエ/AID極東局長会談

37・6・8

6・8